

令和3年度都立高校入試の実施予定状況【確定報】

先月号のこの欄では、令和3年度入試の5月末時点での情報や予想される事項を挙げましたが、去る6月11日に、東京都教育委員会から新たな確定事項がいくつか発表されたため、今回はそれをまとめてみました。

■推薦は1 / 26・27、一般は2 / 21

令和3年度の都立高校入学者選抜の日程が決まりました。検査実施日は推薦入試が1月26日・27日、一般入試（第1次募集・分割前期募集）が2月21日で、いずれも令和2年度と同様です。

■英語スピーキングテスト導入は1年延長

3密回避対応や、授業時間数確保の必要性などから、今年度以降の英語スピーキングテストの計画は全て1年ずつ繰り下げられることになりました。

従来予定では、今年度（令和2年度）に中学3年生全員を対象とした確認プレテストを行い、来年度（令和3年度）より本格実施して、都立入試へも活用されることになっていましたが、全て1年ずつ繰り下げられます。したがって、本格実施は令和4年度となり、現中学1年生の受験時から都立入試で活用される予定に変更となりました。

テストの内容や運営体制等の検証のため、今年度は一部の抽出校（500人程度）で確認プレテストを実施することになりました。また、全中学校に問題等を周知し、希望校を対象に端末を貸し出して「校内体験版プレテスト」も実施する予定です。

■都立高校入試における配慮事項

今年5月、新型コロナウイルス感染症のため中学校等が臨時休業を実施していることを踏まえ、高校入試において出題範囲や内容を工夫するなどの配慮を求める旨の通知が文部科学省より出されました。これを受け、都立高校入試における具体的な配慮事項が定められました。

推薦入試では、文化・スポーツ等特別推薦について、各種大会が中止となっている現状を踏まえ、当日の実技検査を重視した方法が採られます。

推薦入試での配慮

文化・スポーツ等特別推薦では、出願に関わる「推薦の基準」に、大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「実績等を証明する書類等の写し」の提出も求めない。選考は、実施要綱に従って実技検査等により行う。

一般入試では、学力検査について、中学1・2年生の学習内容に加え、各教科における中学3年生の1年間の学習内容のうち、おおむね7か月程度で学習可能な分量が出題範囲となります。このため、下表の内容が出題範囲から除外されることになりました。

| 教科 | 出題範囲から除外する内容 |
|----|---|
| 国語 | 中学3年生の教科書で学習する漢字 |
| 数学 | 中学3年生で学習する内容のうち、次に挙げる内容 ・三平方の定理 ・標本調査 |
| 英語 | 関係代名詞のうち、主格の that、which、who 及び目的格の that、which の制限的用法 ※同様の働きをもつ接触節も出題しない |
| 社会 | 公民的分野のうち、次に挙げる内容 ・『私たちと経済』の「国民の生活と政府の役割」 ・『私たちと国際社会の諸課題』 |
| 理科 | 各分野のうち、次に挙げる内容 《第1分野》 ・『運動とエネルギー』の「力学的エネルギー」 ・『科学技術と人間』 《第2分野》 ・『地球と宇宙』の「太陽系と恒星」 ・『自然と人間』 |

■中高一貫校は都立共通問題を使用

併設型中高一貫教育校5校は国語・数学・英語の3教科はグループ作成問題を、社会・理科の2教科は都立共通問題を使用して学力検査を実施してきましたが、来春（令和3年度）から富士・武蔵の2校が高校からの募集を停止することに伴い、白鷗・両国・大泉の3校は、5教科すべて都立共通問題を使用して学力選抜を実施することとなりました。

■中高一貫校の出願状況

中高一貫校は高校からの募集が2クラスと少なく、レベルも高いため出願しにくい状況にあります。さらにグループ作成問題であったことも敬遠要素の1つでした。

男子は欠席率が高い傾向にあり、大学附属など私立上位校との併願者が多いようです。女子は男子に比べ欠席者が少なく、私立併願をおさえてのチャレンジ受験者が多いようです。